

令和6年1月4日

改めまして、明けましておめでとうございます。

といっても、元日から地震があり、続いて航空機事故があって、おめでたいと言える状況ではないのですが。

しかし、2024年となりました。この「2024年」という言葉は、実は数年前から目にしたり耳にしたりする機会がたくさんありました。それは、パリでオリンピックが開催される年だから、ではなくて、我々の物流業界では「2024年問題」が至る所で言われていたからですね。この、2024年問題については、私もどうしたものかと思い悩んできて、未だにモヤモヤ状態が続いておりました。

そんな折、去年の暮れ、百貨店のクリスマスケーキ騒動がありました。これについてはどこが悪いという犯人捜しに行ってしまうそうですが、よくよく考えてみるといわゆる①発荷主②着荷主③物流業者の3者それぞれに問題があり課題があったように見えてくるんですね。考え方のアプローチを変えてみると、この騒動も2024年問題にリンクしているように思えて、それまでのモヤモヤが少し晴れたような気がします。2024年問題自体は特に解決に至ってませんけれども。

この、アプローチを変えてみる、というのはすごく大事ですね。何かに行き詰った時、活路を見出すのには必要だと思います。

個人的には、去年暮れ、これもクリスマスでしたね、私はいつも2歳の次女を保育園に朝、車で送って行くのですが、クリスマスの朝、次女はもらったばかりのクリスマスプレゼントを抱えたまま保育園に向かう車に乗り込みました。それも仕方ないなあと思いながら、いざ、保育園の前に車が着くと、プレゼントを抱えたまま降りようとしません。プレゼントを置いていきたくないのか、保育園に行きたくないのか、とにかく動かない。困ったなあ、と。このまま時間が経つと、通勤電車に乗り遅れてしまうなあという焦りが出てきました。まあ最悪、次女から無理矢理プレゼントを奪い取って、泣きわめく子を抱きかかえて保育園の先生に渡してくるという乱暴なやり方もあるにはあるのですが、なるべく避けたい。

そんな時、ふとアプローチを変えてみようということで、次女に、「じゃあそのプレゼント、先生に見てもらおうか」と試しに言ってみたら、なんと次女は笑顔で、「うん！」と頷いて元気に車を降りて、保育園の先生にご挨拶をして、私に素直にプレゼントを預けて、保育園に入っていました。

行き詰った時はアプローチを変えてみる。

今年は何度か、行き詰まる場面が出てくると思うんですよね。

そんな時、この「アプローチを変えてみる」ということを心掛けていきたいと思
います。

以上

代表取締役社長 角高哲治